



# びぶりお

University of the Ryukyus Library Bulletin Vol.34 No.4 (No.132) October 2001

## 青年期の読書 —思い出の淵から—

工学部 山本哲彦

大学2年生の頃、夜の街を京都女子大の友人と歩いていた。「僕の親は、ちっとも僕を理解してくれないんだ」「うーん、私たちの年齢になれば、もう、親の方を理解してあげる立場じゃないかしら？」僕はめまいを感じた。感性の中で天動説が地動説に取って替わった。「今まで自分を中心に考えていたんだ！世の中が自分を中心に回っていると思っていたんだ！」それまで男子友人と色々な話をしてきたが、これほどの衝撃を受けたことはなかった。視点や立場の全く異なる人の意見に心を澄ませ、聴きとることの重要性を体験した。

「自分は甘やかされて育って、駄目になった」という反省とも怨念ともつかぬ気持ちから脱し、親自身甘やかされて育った人生であることに気づき、いたわりの気持ちが芽生えてきた。その後、家族のあり方と個人の関係、子供の精神的成長ということに関心が移り、その系統の書籍を読みあさった。さらに、自分の親が育った文化圏のあり方と外国の文化のあり方・比較文明論のようなもの、特に親のあり方、教育のあり方に興味に移り、手当たり次第に本をあさった。

結局、興味は哲学や宗教の領域に及んで今も進行中である。勿論、本業ではなく趣味の域を脱し

ていない。人間としてまともな生き方をしたい—そんな希望がここまで自分を運んできた。その間、多くの知識を読書から与えられた。

ひとりの人間が体験して獲得する情報は高が知れている。その体験不足は他人の体験を受入れることで補充するしかない。「人の知的財産をもらえる！」これほどありがたいことはない。ある意味で、金品に換えられない。人として産れて、自分の世界以外のことまで知り、さまざまな原理や法則・因果関係に気づいていけるのは、人間存在そのものの意味であるとさえ思う。

「読書は、著者との対話である」と言われるが、読者にとっては一方的に著者からの伝達である。これが実は重要ではなからうか。とにかく、著者の意図を誤解しないで終わりまで我慢して読む。この意思的・精神的な活動は青年期に必要な作業であると信じる。文字を読み取り言葉に変換し、思想や心理描写、そして風景や状況に変換する心的・知的作業は人間が獲得した高度な能力であり、死ぬまでに十分楽しみ活用しないともったいない。

大学院生時代、ある時期二週間近く、身体作業ばかりを続けた時期があった。久しぶりに本を開いて文字を追ったとき、乾いた喉に清水を注がれるような満ち足りた気分を味わった。言葉は人の

青年期の読書 —思い出の淵から	目次
…………… 山本哲彦	1
Topic 医学部分館自動貸出装置を導入	… 2
基本図書100選について	… 3

「図書をさがす」	4
文献紹介：幕末の異国船来琉記と当時の琉球の状況—②—	豊平朝美 6
お知らせ	8

あり方を決める。言葉は人の頭の中にあって、人の行動・判断・感情を律する。そういう意味で「始めに言葉ありき、言葉は神なりき」なのかも知れない。言葉のつながりは思想でもあり、読書で培われ、磨かれ、人の生活の仕方・あり方となる。良き言葉を獲得したいものである。

読書嫌いな人は、面白そうな本を読むことから始めればよい。思い出の読書は「吉川英治、三国志」だった。大学院生時代、分冊になった分厚い本を思い切って買った。少しずつ読むつもりだった。夜中に読み始めたら面白くてやめられない。読みつかれて本を閉じ、しばらく1～2時間寝るのだが、気になって目が醒め、また読み続ける。そんなことで、予想外に短期間で読了した。長編の読書の経験には最適である。それ以後、パールバックの「大地」も読んだ。一度、長編小説を読むと、それが自信となって、他の長編にも手を出しやすくなる。

読書ではないが小説の延長として良い映画も人生を彩る。アメリカ映画に多いホラーやバイオレンスもの、CGの技術を売り物にする作品は感心しない。ただ刺激的なだけだ。良い脚本によって注意深く作成されたものは鑑賞に値する。学生時代、僕は自分の犯した悪事のようなものの責任に苛まれていた。自分のエゴによる醜い自分に自己嫌悪していた。その時「赤いテント」という映画を見た。気球による極地探検を試み、墜落、遭難。アラザ

シの血でテントを赤く染めて救援隊への目印とする。救出されるとき隊員を残して単身帰還したため世の批判を受ける隊長ノビレ将軍の内心を描いたものだった。この作品を観て、他にも似た苦しみを持っている人がいること、許されることもあることを知って世の中の広さに思い至ることがあり、精神的に楽になった。

映画や文学の背景にある人・演ずる人も人間であり、悩みながら生きている。女優オードリー・ヘッパンが映画評論家小森のおばちゃんに語ったことをおばちゃんはある雑誌に載せていた。「貴女は美しい人ですね」と言うと「私は自分を美人とは思わない。ただ、長い苦しみに満ちた人生の中で、自分の人生は自分しか責任を取る者がいないことに気づいた。そういう心の修業・整理をしたら、心が軽くなり、それがひょっとしたら私の魅力になっているのかも知れない(要約)」とニコニコしながら答えたという。離婚を経験したオードリーは地動説の中で自分を原点とする座標軸を確保したのかも知れない。夫婦、家族、友人そして社会システムの中で、確固とした自我を確立したのだろう。そんなことも読書で知った。

読書は人生を豊かにする。良書は、そして良い映画は人生の指針を与えてくれる。月並な感想だが、青年時代に良い書籍をたくさん読んでおきたい。

(了) (やまもと てつひこ：工学部教授)

## Topic! 医学部分館図書自動貸出装置導入

医学部分館では本年4月25日より、スリ＝エム社の図書自動貸出装置が稼働しました。貸出は簡便で、処理も早いので、カウンター業務の省力化につながり、効果が出ています。この装置は医学部分館の24時開館へ向けての一環として導入されました。

今後の課題として、図書全冊のバーコードの張替、教職員用の磁気式貸出カードの作成などが残っています。現在は大学生及び大学院生だけの利用となっています。

## 基本図書100選について

附属図書館では、「基本図書100選」を企画しています。中央教育審議会は2000年12月の文部大臣に対する答申『新しい時代における教養教育の在り方について』のなかで、この「歴史的な転換期・変革期における混迷」を乗り越え、我が国の社会及び個人が「より確かな存立基盤を打ち立て」るための原動力として「教養」の意義を説き、大学において「教養教育の意義を再認識」することの必要性を説いています。本学においては将来計画のなかで「教養に富み国際性豊かな人材育成」をメイン・テーマのひとつに掲げ、全学をあげてこの問題に取り組んでいます。

図書館は自学自習の場として、読書をとおり学生の幅広い教養をフォローアップする目的で、これまでも教養図書の充実を図るとともに、教官の推薦図書を「読書案内」として、ホームページで紹介するなどしてきましたが、充分にその成果が達せられたとはいえない現状です。先の答申に

おいても、高等教育段階で「専門分野にとらわれず幅広い分野の古今東西の名著に親しむ」ことの重要性がうたわれているところです。

本企画は、読書によって学生の教養を高め、現代の社会にふさわしい人間性を磨くことを目的とし、教官の協力のもとに沖縄・環境・平和・国際化をはじめとする幅広い分野から、基本的な教養に資する図書100点を選び、図書館本館2階ラウンジ及び医学部分館の専用コーナーに設置し、広く周知に努め、その利用を促進するものです。

現在、本企画は、各学部をとおり教官に推薦図書の依頼を行っているところです。10月末に各学部からの回答をまとめ、本年中には基本図書として100点を選定し、公表する予定です。100選の内容については本誌でも紹介することになっていますのでご期待ください。

基本図書100選コーナー



[本館2階ラウンジ完成予想図]

## ☆☆☆ 図書を探す ☆☆☆

中央図書館所蔵の図書は、主題に応じて日本十進分類法（NDC新訂8版）により分類され、分類番号順に並んでいます。図書は請求記号から探すため、借りたい図書の請求記号を確かめれば、直接書架へ行って探すことができます。

図書の検索には次の二とおりあります。

1. 蔵書OPAC=Online Public Access Catalog (<http://www.lib.u-ryukyu.ac.jp>)
2. カード目録（古い図書で、OPACにデータを殆ど移し替えていますが、古い発行図書を検索する場合は、念のため利用して下さい）

OPACで図書を検索すると、下のような所蔵情報画面が表示されます。実際の本の背には、右下のラベルが貼ってあり、請求記号の順に書架に並んでいます。

	918.6	--- 分類番号
請求記号	Sh15	--- 著者記号
	5	--- 巻数

— 所蔵表示画面の例 —

(例1)所蔵情報—

巻冊次：  
 図書ID：0020000096301  
 請求記号：780.19#AB  
 所在：本館 閲覧室図書  
 貸出状況：貸出可

(例2)所蔵情報—

巻冊次：  
 図書ID：0000820376602  
 請求記号：918.6#Sh15#5  
 所在：本館 図書書庫  
 貸出状況：貸出可

(例3)所蔵情報—

巻冊次：  
 図書ID：0020000038857  
 請求記号：K596.1#OK  
 所在：本館(沖資)沖縄開架図書  
 貸出状況：貸出可

(例4)所蔵情報—

巻冊次：[正]  
 図書ID：0000990143797  
 請求記号：K369.26#OK#1  
 所在：本館(沖資)沖縄資料(閉架)◎  
 貸出状況：禁帯出

◎ 教官と院生以外は沖縄閉架室に入室出来ない為、沖縄閉架室所蔵の図書を閲覧したい場合は、カウンター備え付けの「館内閲覧利用票(郷土資料)」に必要事項を記入し提出すれば係員が出納します。

カード目録

— カード目録の例 —

請求記号

141.93 の書架上の  
 Ki68の所にあるこ  
 とを表しています。

141.93 Ki68	北村 晴朗 人間形成の心理 共同出版 昭和46(1971) 246p. 22cm
○	

# －資料の配置案内－



一般図書は3階に配架されます。「閲覧室の図書」は1990年以降受入れの図書ですが、和洋混配です。「書庫の図書」は1989年以前の受入れで、3階は和図書、1階に洋図書と別々に配架されています。

年間約2万冊以上の図書が入荷します。装備されると図書は先ず「新着図書コーナー(2階ラウンジ)」に1～2週間展示された後、閲覧室に配架されますが、「新着図書コーナー」からも貸出します。

## 文献紹介：幕末の異国船来琉記と当時の琉球の状況②

—琉球大学附属図書館所蔵沖縄関係資料から—

豊平 朝美

須藤氏訳の「大琉球島航海記」(須藤氏訳『異国船来琉記』所収)の解説によれば、ホール艦長、マックスウエル艦長等が率いるライラ号、アルセスト号が英国を出航して、中国へ航海した目的は表向きはアマースト卿を首班とする中国親善のための派遣であった。

広東(カントン)におけるシナの地方官憲が貿易品に重税を課そうとした企図があり、そのために莫大な損失を蒙る広東の商館と東印度会社が、その対策を本国政府に請願した。英国政府は北京政府との交渉にあたり、アマースト卿を全権大使に任じた。大使一行は1816年2月5日、巡洋艦アルセスト号で英国を出発した。途中でホール艦長の率いるライラ号と落ち合い、5隻の艦隊で広東に向かった。アマースト卿大使一行は広東で降り、8月上旬、陸路北京に向かった。その間に、アルセスト号、ライラ号両艦は朝鮮、及び琉球列島方面の、ほとんど欧州人に知られていなかった海洋の探検に利用されることになったのである。朝鮮を経由して、9月13日、午前中に琉球のサルファー・アイランド(注1)を通過、14日昼頃は沖縄本島に接近し、南下した。15日には本島最南端の島尻の喜屋武沖に仮泊、翌日、16日(注2)にふたたび北上して、午後2時頃、泊村洋面に到着した。以後、10月27日まで、琉球に滞留している。その間、乗組員の一部は泊の聖現寺に滞在した。ホール一行は、琉球国王との謁見を試みたが、果たせなかった。海洋及び沿岸の測量が主目的であったため、ホール側は謁見を強要することもなく、あっさり断念したという。それにより琉球側も安堵したようである。アマースト卿大使一行の北京政府との親善は失敗に終わった。北京で朝貢国の使臣扱いにされて、床に額を押しつける「九拝」の礼を強要されたが、それを拒んだためといわれている。

異国船とは、欧米国籍の船で、南蛮船、阿蘭陀国船等西洋船を総称し、琉球での汎称は「うらんだあ船」である。「うらんだあ」とは当時の沖縄では西洋人に対する総称の意味で

使っている。同訳文には随所に琉球側の記録として『球陽』及び『異国日記』等琉球側の日記が引用されており、琉英双方の意向及び方針を知ることができる。以下「大琉球島航海記」から異国人に対する島民の好奇心や当時の琉球の風俗等を記述している個所を何点か抜粋する。

「9月16日、ライラ号(中略)、アルセスト号は町から半マイル離れて、それぞれ投錨した。たちまち、島民を満載したたくさんのカヌー(注3)で取り囲まれた。彼等は子供まで連れて、ぞろぞろ船に登ってきた。(中略)船と平行している海岸は、おびただしい見物人である。色とりどりの服装のため、はなやかな光景を呈していた。」

「彼等(注4)の服装は奇異にも典雅なものであった。ひろい袖を持っただぶついたゆるやかな外衣に幅ひろの豪華な帯—練り絹の帯を締めている。黄色い円筒形の帽子をかぶり、木綿できの短靴というより、靴下と藁の草履(注5)をはいている。三人とも扇子を持参していて、使わない時は帯に挟んでいた。帯には小さいパイプと煙草入れをぶらさげている。」  
「今日やってきた人々の、色とりどり、柄さままの服装での見物であった。大部分は染色した木綿だが、中には手描き模様のもを着たのもいた(中略)。一般的には青の緋が支配的であった。子供は概して大人より派手である。婦人はまだ一人も会はないので(注6)、どんな服装をしているのか、述べることができない。」

「艦尾甲板(注7)に備えた望遠鏡でホール側が見た橋(泊高瓦)の光景は次のようなものである。田舎の方から来る籠を頭上にのせた女たちは、上着は、男物と違って、前があいており、帯を締めていない。前の開かない下着をつけている。一人の女は、インドでも見るように子供を尻の上に背負って、子供の両手は母親の肩に、母親の腕は子供の腰を抱えている。農夫が白で米をついている。石橋のかかっている兩岸では、衣服の洗濯をしている。それは、

インド風の洗濯で、水に浸けては、石の上でたたくのである。]

「役人はたいがい、1、2人の息子を引き具しているのが常であった。息子たちはいつも親のすぐそばに侍っていて、何か珍しいものがあると、その都度前へ押出される。このような方法で息子たちは、あらゆる事物に親しむように育てられるのであるが、彼らほど礼儀も正しく、愛情の深いものはない。」

「子供の着物は、派手に花が染められていることが多い。雨天または寒い天気には、役人は一種の外套を着ける。これは厚い青色の羅紗で仕立てたもので、袍の上に着て、前でボタンを締める。草履はすべての階級を通じてまったく同様である。上流の人々は白木綿の足袋をはく。」

「彼等の髪の毛は真黒で、植物の葉から絞った汁をつけ、いつも艶々と光らせている。髪の毛の結び方(注8)は一様である。頭のまわりから毛を欠き扱きあげ、頂で固い結びを作り、剃ってある頭の頂きをちょうどおおいかくすようにする。結び玉には日本の金属製のピンを挿す。」

「儀礼的な場合、上級の人々はみなハチマキと呼ばれる一種のターバンをかぶる。これは明らかに円筒に幅広の帯びを巻きつけて作ったもので、〈中略〉下級の人々は時には頭のまわりに色染めの布又は手巾を巻く。これはサ

ージと呼ばれている。肌着はうすい木綿の着物である。男は肉体に直接装飾をつけない。黥(注9)もしない。腕に魚突槍のマークをつけた漁夫をみたことはあるが、一般的に行なわれていない。」 (つづく)

(とよひらともみ:図書館専門員)

(注1)硫黄島

(注2)旧暦7月25日

(注3)小さい船のこと

(注4)役人たち

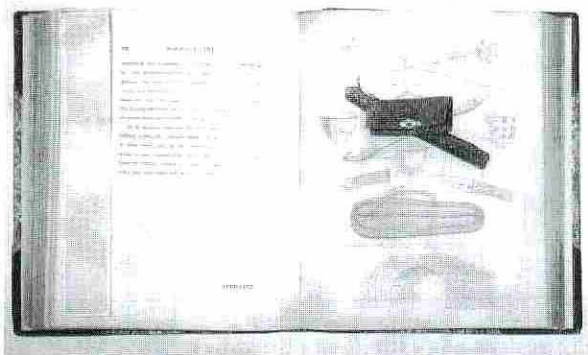
(注5)琉球の人々は雨天には広い帽子(クバ笠か)を使用し、草履の替わりに下駄をはく。雨にぬれないように雨傘を使用する。(山口栄鉄 編著『外国人来琉記』所収参照)。

(注6)見物に婦人が見あたらないことは琉球側の日記(異国日記)の「女共阿蘭陀人え不見様稠敷締方可申渡候」の通り、王府は琉球の女性を外国人の目からきびしく遠ざけていたからである。(『異国船来琉記』の訳注参照)

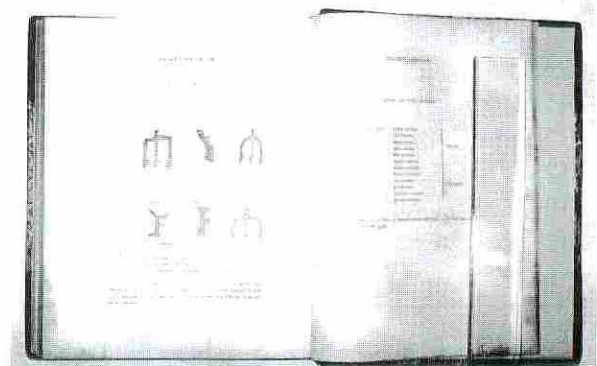
(注7)停泊中のライラ号

(注8)カタカシラとよばれる当時の琉球の男性の髪型

(注9)いれずみ。当時は既婚者を意味するものとして琉球の婦人が手の甲にハジチと呼ばれる入墨を施していた。



左: 琉球の士族の必需品等と那覇の橋



右: 漁師の入墨

左右共 バジル・ホール著

『朝鮮西海岸及び大琉球島探検航海記』1818年ロンドン版収録

# お知らせ

◎ 開館案内 2001年10～12月

10月							11月							12月						
日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土
	1	2	3	4	5	6					1	2	3							1
7	8	9	10	11	12	13	4	5	6	7	8	9	10	2	3	4	5	6	7	8
14	15	16	17	18	19	20	11	12	13	14	15	16	17	9	10	11	12	13	14	15
21	22	23	24	25	26	27	18	19	20	21	22	23	24	16	17	18	19	20	21	22
28	29	30	31				25	26	27	28	29	30	23	24	25	26	27	28	29	
													30	31						

- ・ 開館時間 通常期：月～金 [黒字] 8:30～22:00 土・日・祝 [緑字] 13:00～20:00
- ・ 休業期：月～金 [青字] 8:30～17:00 土・日・祝 [赤字] 休館
- ・ 休館日 土・日曜 (冬季休業：12/25～1/6)、年末年始 (12/28～1/4)、定例休館日 (10/25,11/12)

※ 本館では当月、翌月の開館案内 (カレンダー) を入り口及び掲示板に掲示しています。ご注意ください。(年間の開館案内はホームページをご覧ください)

## 図書館映画会

。。。あの思い出の映画をもう一度。。。

☆は休業期 (上映13:30～)  
 その他は通常期 (上映①15:00～  
 (上映②18:00～)  
 上映場所：琉球大学附属図書館  
 1階 多目的ホール  
 又は1階AV視聴室(共同学習室)

### 【10月の予定】

- 10月3日 (水) 伊豆の踊り子 (監督:五所平之助)/1933/松竹蒲田映画 93分
- 10月10日 (水) 拝啓、検察官閣下殿：THE INSPECTOR GENERAL/1949/アメリカ映画 102分
- 10月17日 (水) きけ、わだつみの声：Last Friends/1995/東映映画 129分
- 10月24日 (水) 処女の泉：Jungfrukaellan/1960/スウェーデン映画 90分
- 10月31日 (水) 革命前夜：Prima Della Rivoluzione/1964/イタリア映画 112分

### 【11月の予定】

- 11月7日 (水) シェーン：SHANE/1953/アメリカ映画 118分
- 11月14日 (水) 第十七捕虜収容所：STAL-AG17/1953/アメリカ映画 119分
- 11月21日 (水) 裁かる、ジャンヌ：LA PASSION DE JEANNE D'ARC/1928/フランス映画 80分
- 11月28日 (水) ハスラー：THE HUSTLER/1961/アメリカ映画 135分

### 【12月の予定】

- 12月5日 (水) 地上(ここ)より永遠(とわ)に：From Here to Eternity/1953/アメリカ映画 118分
- 12月12日 (水) 生まれてはみたけれど (小津安二郎作品) /1932/松竹蒲田映画 91分
- 12月19日 (水) 群衆：MEET JOHN DOE/1941/アメリカ映画 123分
- ☆12月26日 (水) 第九交響楽：SCHLUSSAKKORD /1936/ドイツ映画 98分

琉球大学附属図書館報 “びぶりお” 第34巻 第4号 (通巻第132号)

平成13年10月1日発行

発行：琉球大学附属図書館 〒903-0214 沖縄県中頭郡西原町千原1番地

電話 098(895)8168 Fax.098(895)8169